



## 牧園町麓地区街づくり促進会（霧島市）

発表者：和田新蔵氏

皆さんこんにちは。私は牧園町麓地区街づくり促進会の和田新蔵と申します。

本日は、このような活動報告の機会をいただき誠にありがとうございます。

### 1 はじめに

本会は、霧島錦江湾国立公園の山麓、牧園町の中心、麓地区に位置しています。発足の始まりは、昭和59年からの当局の説明会がきっかけで、麓地区中心街を通る国道・県道の拡幅、バイパス工事に伴う住宅や商店街の移転、神社、墓地等の移動は100年に一度の街づくりの機会と捉え、みんなで協力して成功させようと地元高齢者を中心に総勢35名で立ち上げました。官民協働事業として、公園など一部を残して約15年かけて完成しました。

現在の主な活動は、農育文化交流活動と石坂川・みんなの水辺社交場推進活動、伝説民話のルーツを探索・伝承する活動の3点になります。

### 2 農育文化交流・生きがいつくり

農育文化交流・生きがいつくり活動についてでございます。

本会を中心に老人クラブや地域住民の方々に声かけして「農育文化交流会」を結成しました。耕作放棄地を再生する目的で地域興しを始めて5年目になります。きっかけは、牧園小学校通学路側道に接している農地が30年間も耕作放棄地になっていたところにヘビや穴熊が生息し、子どもたちが危険にさらされていると聞いたので、雑草やゴミなどを処分して少しずつ開墾していきました。耕作放棄地は葦草の根が非常にはびこり、人の手では掘り起こせず地元の建設会社のユンボで根っこから掘り起こしてもらい、私たちが引っぱりだし大変な作業でした。





土地もだいぶやせていたので、土壌改良剤としてEMポカシと塩をまきました。EMポカシとは、米ヌカと活性液でつくる有機肥料で土壌改良に役立ちます。塩をまくもう一つの理由は、昔、塩のかわりにどの家庭も塩分の多い人糞を余すことなく田畑にまいていました。塩は四大栄養素やミネラルの宝庫です。こうして耕作放棄地は優良農地に生まれ変わり、一つの目的が達成されました。



そこで、日頃より考えていた児童の体験学習としての農育の伝承と地域住民との交流により高齢者の生きがいづくりを一緒にすることはできないだろうかと考え、「牧園小学校の児童」と「農育文化交流会」のみなさんでサツマイモやトウモロコシ、皇帝ヒマワリ、



コスモスなどを植栽し、その耕作放棄地に見事な実がなり花が咲きました。そのときの様子をスライドから見ることができます。子どもたちの慣れないながらも一生懸命な姿、高齢者の方々が優しいまなざしで植え方を教える姿など、賑やかで楽しい時間を過ごすことができました。秋には収穫祭と題してみんな

でイモ掘りをして全員で収穫物を分け合いました。その結果、いつもひきこもりがちの高齢者に満面の笑みがうかび、子どもたちと道ばたで会っても、顔を覚えていてくれて、元気にあいさつしてくれます。心あたまる地域興しになりました。

もう一つの目的は、私たち高齢者は幼き頃より自給自足の精神を学び農育の大切さを体験しています。おかげさまで余生は、ここ生まれ故郷に帰り庭先の畑で新鮮な野菜を栽培し、心豊かに過ごしています。牧園小学校の児童たちも、これから中・高・大学の卒業を経て社会で活躍した後、高齢余生時は、ここふるさとへ回帰して、昔培った体験学習を思い出し、未来の児童へ農育





の循環伝承へと繋がればと願っています。

秋の収穫後は、菜の花を植え、春のおとずれを告げる恒例行事として地元の老人クラブの人たちが菜の花畑で「花見の宴」を、道行く人々が春らんまんの菜の花畑を見て喜んでもらっています。

### 3 河川景観美化・保全

石坂川・みんなの水辺社交場推進活動についてでございます。

この活動については、鹿児島県が行う「みんなの水辺サポート推進事業」と霧島市が行う「河川アダプト制度推進事業」の認定をそれぞれ受けています。制度に従い毎年「昭和の日」と「海の日」に草払いやゴミ拾い等の清掃活動をおこなっています。又、「海の日」の清掃作業後は河川の浄化作用のある EM 団子投入もおこなっています。

EM 団子とは、土と米ヌカ、EM 活性液を混合、攪拌機で混ぜ合わせテニスボール位の大きさに手で握って作ります。（毎年1,300～1,500個）約2週間寝かせて熟成させると河川浄化作用のある EM 団子が出来上がります。

それを海の日に「河川の浄化～全国一斉 EM 団子投入イベント～」に合わせて、三体川、石坂川、奥天降川（塩浸）に「環境浄化ソーオーレ、EM 団子ソーオーレ！」とかけ声をかけて、今年は1,600個投入しました。



奥天降川の塩浸にある龍馬公園遊歩道では、次世代を担う第一リハビリ専門学校・鹿児島高専・国分高等学校の各生徒さんたちもボランティアで河川清掃や EM 団子投入に参加、又、そこに居合わせた観光客に呼びかけたところ多数の方々も EM 団子投入に参加され、「環境浄化ソーオーレ、EM

団子ソーオーレ！」とコダマする歓声で私たち高齢者も年を忘れ青春を謳歌しました。

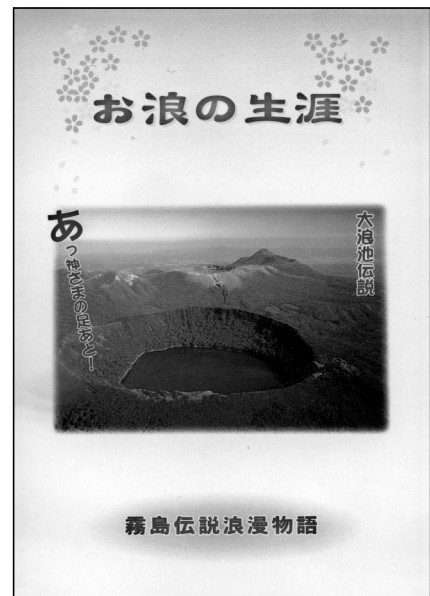
### 4 文化・技術の伝承

地元に残る伝説と民話のルーツを深く知る活動についてでございます。

ここ霧島連山には、天孫降臨伝説をはじめ民話が豊富にあります。特に「大浪の池由来」の主人公お波は小鳥やお花、自然界をこよなく愛し、「美しくも悲しい別れの宿命を背負っ



ておりました」という昔話です。私たちは民話お波のゆかりの地を探索、踊郷の舞台である飯富神社に集合して、近くのお波が生まれ育った田方部落を尋ねて、地元の長老や有志の方々からお波の生家や民話にまつわる話を聞くことができました。又、牧園町内に存在する七つの滝や名所を写真におさめ、題材として牧園小中高校生に俳句や短歌、詩などの応募をつのり、冊子にまとめ「お波の生涯」を印刷発行しました。学校や図書館に配布して子どもたちに伝説、民話、名所の伝承を行いました。県立図書館館長からも別途要望がありましたので、3冊程贈呈しました。



最後になりますが、本日は本会の活動を表彰していただき誠に有難うございました。日頃よりご協力いただきました方々へこの場をかりてお礼申し上げます。今後とも、農育文化交流活動や河川景観保全活動を柱にして、私たち高齢者もますます元気で地域興しの役立てればと考えています。

ご清聴ありがとうございました。